

# 世界へ。

## 競泳日本一決定戦



スポーツ振興基金  
SPORTS PROMOTION FUND

# JAPAN SWIM 2013

### 第89回 日本選手権水泳競技大会 競泳競技

兼 第15回世界選手権大会2013 代表選手選考会 兼 第27回ユニバーシアード競技大会 代表選手選考会

2013.4.11(THU)▶14(SUN) ダイエープロビスフェニックスプール

主催：公益財団法人日本水泳連盟 主幹：一般財団法人新潟県水泳連盟

後援：新潟県、新潟県教育委員会、公益財団法人新潟県体育協会、新潟市、新潟市教育委員会、公益財団法人長岡市スポーツ協会、一般財団法人上月財団



GMOクリック証券

ANA

レオパレス21

AJINOMOTO.

PARAMOUNT BED

東進

東京海上日動

SEIKO

asics

Mizuno

arena

YAMAHA

9ネオン

上月財団



平泳ぎ



### CLOSE UP!

## 今大会注目のニューフェイスたち

### 次々と記録を更新し続ける驚異の16歳!!

#### EMU HIGUCHI

セントラル浦安 所属  
1996年12月29日生まれ(16歳)。

女子個人メドレーで大きな飛躍を遂げたのは、昨年のインターハイ。200m、400m個人メドレーで、1年生ながら2冠を達成。特に200mは、自己ベストを1秒53も上回る2分12秒00の日本高校新記録を樹立した。「派遣標準記録(2分12秒41)を狙っていて、切れるとは思っていただけ、この記録は思ってもみませんでした」。まだあどけない笑顔で満足そうに話したが、「ここまできたのなら11秒台を出したかった」と、悔しさにもじませた。この結果が自信に繋がったのだろう。それほど得意ではない短水路でも、200mで日本記録に0.91秒まで迫る。2分08秒75の短水路日本高校記録を更新し、着実に力をつけていることを証明した。「前半からトップで入って、その流れでレースをするのがベスト」と言うように、小柄な身体を目いっぱい使って前半から突っ込んでいくレース展開は、見ても気持ちが良い。「練習は厳しいけど、耐えて頑張れば必ず結果は着いてくる。200mで代表入りしたい」と、初の世界切符獲得に自信をのぞかせる。カギを握るのは、前半のバタフライと背泳ぎ。ここで前に出ることができれば、さらなる飛躍を遂げるに違いない。



個人メドレー

#### AKIHIRO YAMAGUCHI

志布志DC 所属  
1994年9月11日生まれ(18歳)。

五輪熱気が冷めやらない2012年9月の岐阜の青空に、世界新記録と大歓声が響き渡った。男子200m平泳ぎで叩き出した2分7秒01は、五輪2大会連続2冠の北島康介が持つ日本記録を0秒50上回り、1カ月前にロンドン五輪覇者ダニエル・キュルタ(ハンガリー)がマークした世界記録をも0秒27更新。それでも本人は「狙っていたのは2分6秒台」と悔しさをのぞかせたのだから、今後の世界舞台を期待せずにはいられない。

わずか1年で自己記録を4秒以上短縮。その大躍進の要因は精神面の成長にある。2011年国体で初めて日本水泳が定める強化指定選手の記録を突破し、代表合宿で平井伯昌コーチの指導を受けられるようになり、「寺川綾さんらトップ選手との練習で世界を意識するようになった」という。ロンドン五輪出場を志した悔しさもバネとなった。

だが世界記録の快挙達成後は本来の泳ぎ、納得のレースができず苦しんだ。思うように練習が積めていても、試合では「見えないプレッシャーがあるのか」。タイムばかりを追い求め、それが力みにつながっていたのだ。

4月、同じ年の五輪メダリスト萩野公介とともに東洋大へ進学。2016年リオデジャネイロ五輪の金メダル候補として真価が問われる1年になる。今大会で「まずは世界選手権の代表権を獲得すること」と18歳、世界に通ずる扉をいま、開く。

# 山口観弘

日本競泳界期待のニューフェイスたち



## 注目選手

# 平泳ぎ

世界記録保持者の山口観弘が、満を持して名実ともに北島超えに挑む。北島康介は再始動が遅れた伏線は、どう山口を迎え撃つのか。彼だからこそ、その泳ぎに期待してしまう。女子は鈴木聡美が抜きん出ているものの、200mでは五輪を経験してひと回り成長した渡部香生子との戦いに注目しよう。



## 北島康介

KOSUKE KITAJIMA

アクエリアス 所属

1982年9月22日生まれ(30歳)

ロンドン五輪出場

4x100mメドレーリレー・銅メダル(入江陵介、北島康介、松田次志、藤井拓郎)・100m平泳ぎ・5位・200m平泳ぎ・4位

### 拠点を米国から日本に戻し、新生「チーム平井」で現役続行!

ロンドン五輪から約半年後の2月4日、再び水着姿で私たちの前に現れた。「とし1年水泳を楽しみたい。思いっばい水泳をやって(競技生活)を終えたいなという気持ち」と今季の現役続行を表明。さらに「自分の水泳人生を締めくくるには、もう一度平井先生に指導してもらいたい」と、拠点を米国から日本に戻し、2大会連続2冠を達成した北京五輪前以来、約5年ぶりに恩師の下で泳ぐという胸高鳴るニュースも一掃だった。

ただ本格的な練習の再開は年が明けてから。体力回復にも時間を要し、万全の準備態勢とは言い難いが、才能豊かな若手が集まる新生「チーム平井」から受ける新たな刺激が、勝負師としての本能を呼び覚ますことだろう。今大会では50mをメインに世界選手権代表を狙うつもりだ。



## 鈴木聡美

SATOMI SUZUKI

ミキハウスY 所属

1991年1月29日(22歳)

ロンドン五輪出場

200m平泳ぎ・銅メダル・100m平泳ぎ・銅メダル・4x100mメドレーリレー・銅メダル(寺川 健、鈴木聡美、辻澤ゆか、上田尊信)

### シンデレラから日本の女王、世界の女王へ

潜在能力の高さは評価されつつも、なかなか国際大会で結果を残すことができなかったが、ロンドン五輪で一気に花開き、日本競泳女子史上初の同一大会3つのメダルを獲得。それでもおごり高ぶることなく、「これからもチャレンジャーでありたい」とコメントを残し、シンデレラガールとして世間から注目を集める存在となった。

この春ミキハウスに就職し、取り巻く環境が変わるなかで、世界不動の女王レベッカ・ソニ(アメリカ)を追い詰めた持ち味のキックに、どう磨きをかけたのかに注目したい。いつまでもシンデレラではいけない。世界の女王に勝つには、日本の女王として戦いを挑まなければならない。そのステップとなる泳ぎに期待が高まる。



## 渡部香生子

KANAKO WATANABE

JSS立石 所属

1996年11月15日生まれ(16歳)

ロンドン五輪出場

200m平泳ぎ・準決勝敗退

### 五輪を経験してますます進化している16歳。

日本選手団最年少(当時15歳)で出場したロンドン五輪。得たものは多かった。初の国際舞台、日の丸の重み、チームで戦う大切さ…。唯一出場した200m平泳ぎで準決勝敗退し、悔し涙が頬をつたったのは人生で初めてだった。「次は絶対に決勝へ進みたい」と固く誓っている。

もともとは個人メドレーが専門。中1のとき右肩を痛め、最も負担の少ない平泳ぎに転向して頭角を現した。指導する麻積隆二コーチは、水中抵抗の少ない姿勢で泳ぐことのできる天性の技術を高く評価している。

年始から肩の状態も落ち着き、世界選手権の切符が懸かる今大会へ向けては200m個人メドレーの出場も視野に入れ練習を積んだ。だが本命はやっぱり200m平泳ぎ。「2分22秒台で優勝して代表に入りたい」。進化した姿を見せる。



## 注目選手



## 入江 陵介

RYOSUKE IRIE

イトマン東進 所属

1990年1月24日生まれ(23歳)

ロンドン五輪出場

200m背泳ぎ・銅メダル / 4×100mメドレーリレー・銀メダル(入江陵介、北島康介、和田文志、青井祐都) / 100m背泳ぎ・銅メダル

### 見据えるのはリオの金! 新生・入江の泳ぎに注目!!

実を結んだ100mの銅、強敵ライアン・ロクテ(アメリカ)を抑えながらも頂上に届かなかった200mの銀、そして夢に見た400mメドレーリレーで、チームの力を一つにつかみ取った銀。出場全3種目で獲得したメダルから溢れる思いが、23歳の心を動かしたのだろう。

「同じ環境とコーチでやるのもいいが、違う刺激を求めた。海外でやりたい気持ちが強かった」。年明けと同時に、初めて単身で豪州のプリズベンへ。北京五輪女子個人メドレー2冠のステファニー・ライス(豪州)らを指導したコーチ、マイケル・ボールの下で3カ月間トレーニングを積んできた。

まだ手にしていない「世界一」の称号をつかむべく、再出発した日本のエース。今大会でどんなパフォーマンスを見せてくれるか。



## 酒井 志穂

SHIHO SAKAI

ミキハウスY 所属

1990年12月1日生まれ(22歳)

### 挫折を乗り越え 世界へ再び挑む

「やっぱり水泳が楽しいし、好きです」。ロンドン五輪選考会の挫折から、少しずつ自分の足で次のステージに進み始めるきっかけとなった。昨年9月の日本学生選手権での言葉だ。11月から練習環境を山梨に移して神田忠彦監督の下、フォームの改善、キック強化を中心に取り組んだ。その成果は、2月のきららカップで、10カ月ぶりに出した200mの2分09秒82というタイムに表れている。

その後の日本選手権(25m)では体調不良から思うような泳ぎができなかったが、落胆する様子はない。「レースに関しては悪いところはありません。楽しみは4月におあずけですね」と自信をのぞかせる。失った笑顔を取り戻すのは、もうすぐだ。



# BACK 背泳ぎ

日本のエースとして、ロンドン五輪で期待通りの活躍を見せた入江陵介と寺川綾が予想される。若手筆頭の赤瀬紗也香や、昨年急成長した白井裕樹といった新勢力とリベンジを誓う古賀淳也と酒井志穂がメダリストに挑むレースは必見だ。



## 寺川 綾

RINA TERAKAWA

ミスノ 所属

1994年11月12日生まれ(28歳)

ロンドン五輪出場

100m背泳ぎ・銅メダル / 4×100mメドレーリレー・銅メダル(寺川綾、鈴木聡美、加藤ゆか、上田尊佳)

### 五輪後記録を更新。さらなる高みへ!

競技人生の集大成と位置づけたロンドン五輪で銅メダルを手にしたスイマーは、約3カ月間の休養後、現役続行を決意した。「アスリートとしての自分が一番自分らしいから」。周囲の支え、ファンらの声援に背中を押されたという。

練習の一環だった1月の東京都選手権100m背泳ぎで59秒79の好記録をマーク、2月の日本選手権(25m)でも50mで高速水着時代の2009年に出した日本記録を更新、100mも自己ベストを出した。

好脚の要因に挙げたのは心のゆとり。記録だけを追い求めて「いっぱい、いっぱいだった」五輪前とは違い、今は「新しい自分を見つけたい」と、広い視野で自由に泳ぎを模索することが楽しい。今年29歳。さらなる進化が期待される。





**塩浦慎理**

SHIORI SHIOURA  
中央大 所属  
1991年11月26日生まれ(21歳)



**伊藤健太**

KENTA ITO  
ミキハウス 所属  
1990年10月28日生まれ(22歳)

# 自由形

FREE

世界から遅れをとっている日本の自由形だが、国をあげての強化の成果は形になりつつある。突破したことをきっかけに、内田美希も急速に力をつけている。男子短距離期待のホープ、伊藤健太と塩浦慎理の争いは必見だ。長距離では山本耕平に、日本人2人目となる15分切りを見せてもらいたい。

## 日本の自由形を担う 正反対の2人

“理論”の伊藤と“感性”の塩浦。性格も泳ぎも全く正反対の2人が、熱い。お互いのことを聞いてみると、それぞれの性格が垣間見える。伊藤は塩浦について「手足が長くて、1ストロークで進む距離が長い。自分の特徴を活かした泳ぎをしている」と分析。一方、塩浦は伊藤を「すごい選手だし、ライバル。負けたくない」と非常にシンプル。泳ぎひとつとっても、細かく分析して理論的にフォームを組み立てる伊藤に対して、一見粗削りだが感覚的に効率よく、自分に最適な泳ぎをするのが塩浦。

そんな正反対な2人だが、目標は全く同じ。個人での日本代表権獲得。男子自由形の未来を切り開く2人のスプリンターが、切磋琢磨してどこまで記録を縮めるのか注目だ。



**内田美希**

MIKI UCHIDA

東洋大 所属  
1995年2月21日生まれ(18歳)

ロンドン五輪  
4×100mリレー7位(上田春佳、松本悠生、内田美希、伊藤健実)

## 驚異の“水泳センス”と “潜在能力”の持ち主

44年ぶりの決勝進出となった、女子4×100mリレーメンバーとしてロンドン五輪の決勝の舞台に立ったことが、世界を意識させた。2月の日本選手権(25m)では苦手な200mにも挑戦して、「100mに繋がる良い泳ぎができたと思います」と、成長の手応えをつかみ、「世界と戦える選手になりたい。日本では負けていけない」と強い決意を口にする。

これまで地元では1日に1回しか練習しておらず、ウエイトもほぼ未経験。それでも代表権を勝ち取るセンスと潜在能力に驚きを隠せない。この春から新しい環境で、ようやく本格的なトレーニングに取り組みはじめてばかり。「自分の泳ぎが確立されつつある」という未完の大器から目が離せない。



**山本耕平**

KOHEI YAMAMOTO

鹿屋体育大 所属  
1991年11月4日生まれ(21歳)

## ロンドン五輪選考会での 悔しさを胸に リオでの躍進を期す

1500m自由形決勝、派遣標準記録とほぼ同じペースで泳ぎ続けるも、最後の最後で力尽きた。「ラスト200mを上げられるように練習してきたが、甘かった。もっと自分を追い込んで、絶対に次は(世界に)行きます」と、涙をこらえながら前向きなコメントを残したロンドン五輪選考会。だが本当の意味では前向きにはなれず、練習にも身が入らなかった。同年夏の日本学生選手権でも思うような泳ぎができずにライバルの後塵を拝した。

しかし、いつまでも過去に縛られているわけにはいかない。12月の世界短水路選手権で初の国際大会を経験。「冬場は良い感じで泳ぎ込めている」と、次の一步を踏み出した。1年前、派遣標準突破まで0.55秒届かなかった雪辱を果たせるか。



## 注目選手

# バタフライ BUTTERFLY

ロンドン五輪メダリスト、星奈津美の牙城は揺るがない。自身が樹立した驚異的な200mの日本記録に、どこまで迫れるか、タイムに注目。個人は100mでの代表権獲得にも意欲的な松田丈志と、どこまで迫れるか、タイムに注目。個人の派遣標準切りこたわる藤井拓郎、2月の日本選手権(25m)で復活を果たした河本耕平の、三つ巴の勝負が見逃せない。



## 松田丈志

**TAKESHI MATSUDA**  
コスモス薬品 所属  
1984年6月23日(28歳)  
ロンドン五輪出場  
4x100mメドレーリレー・銅メダル(入江陵介、北島康介、松田丈志、藤井拓郎) / 200mバタフライ・銅メダル / 100mバタフライ・予選敗退

### 心機一転、練習環境を平井コーチの下に移し、さらなる飛躍を目指す!

ロンドン五輪男子200mバタフライで、北京五輪に続く2大会連続銅メダルを獲得したベテラン。「まだ改善の余地はある」と、競技を続ける上で導き出した答えは「環境の変化」だった。

24年間、二人三脚で歩んできた久世由美子コーチから離れ、名将平井コーチに門下入り。萩野、山口ら若手と世界一を目指す新たな環境に「刺激をもらっている」と充実感を漂わせる。

練習量は減った。一方で常に求められるのは、質の高いレース仕様の泳ぎ。平井コーチと細かく話し合いながら水中抵抗を減らすフォームに修正中。コレラ・カウエンの海外研修は課題は多いが、代表権を持っているという自信は揺るがない。一方で一定の手見は得ないという。昨季から力を込めた200mバタフライに注目が集まる。



## 星 奈津美

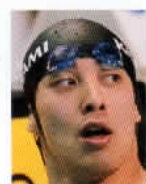
**NATSUMI HOSHI**  
スウィン大教 所属  
1990年8月21日生まれ(22歳)  
ロンドン五輪出場  
200mバタフライ・銅メダル  
100mバタフライ・予選敗退

### 圧巻のスパートカに磨きをかけ、世界の頂点を目指す

バパーが必要とされる女子200mバタフライで、「世界ランキング1位、金メダル候補」というプレッシャーを背負って挑んだロンドン五輪。164cm、53kgと小柄なスイマーが、スパートをかけた残り50mで2人抜き、3位に食い込んだ。「絶対にメダルをとりたい」という気持ちが強かった。ホッとします」。目に涙をためて喜んだ。

そして頂点を逃した悔しさもやっぱり味わった22歳は、五輪後10日間だけオフを取って練習を再開。特に今はロンドンでは未完成だったターン動作の改善に力を入れており、3月は恒例の高地トレーニングで再び、自らを追い込んできた。

体調のピークを合わせるのはあくまで7月の世界選手権だが、今大会で「自信が持てるレースをしたい」とのことだ。



## 藤井拓郎

**TAKURO FUJII**  
コナミ 所属  
1985年4月21日生まれ(27歳)  
ロンドン五輪出場  
4x100mメドレーリレー・銅メダル(入江陵介、北島康介、松田丈志、藤井拓郎) / 100mバタフライ・予選敗退

### 五輪後、泳ぎを大きく変更。バタフライのスランプ打破なるか!?

100m自由形の日本記録保持者であり、短水路では200m個人メドレーでも日本記録を保持するオールラウンダーだが、「バタフライで優勝して、派遣標準記録を突破することです」と、バタフライへの思いは人一倍強い。

北京五輪で6位入賞、上海世界水泳選手権でも5位入賞と結果を残してきたが、ロンドン五輪では予選敗退。その後、しばらく納得のいく泳ぎができていないというバタフライのスランプを打破するために、「大きく泳ぎを変えた」。頭的位置を低くして、なおかつボディポジションを高く保ち抵抗を減らすように改善。27歳にしてさらなる進化を追い求めるベテランは、2009年以降の自己ベスト更新と個人の日本代表権を狙う。



## 注目選手

# 個人メドレー

INDIVIDUAL MEDLEY

ロンドン五輪でスターダムにのし上がった萩野公介。その萩野と、短水路で好調をアピールした瀬戸大也による、若手同士の戦いは見応え充分。女子の400mは最古の日本記録に、五輪代表の大塚美優、高橋美帆が挑む。それぞれ得意な種目が違うため、抜きつ抜かれたりの展開は必至。最後まで目が離せないレースが期待できる。



## 萩野公介

KOSUKE HAGINO

東洋大 所属  
1994年8月16日生まれ(18歳)

ロンドン五輪出場  
400m個人メドレー・銅メダル  
200m個人メドレー5位

### 怪物超えを果たした18歳。 一気に世界の頂点へ突き進む!!

ロンドン五輪で躍進した日本のニューヒーロー。男子400m個人メドレーで、「怪物」マイケル・フェルプス(アメリカ)よりも先にゴールし、銅メダルを胸に初々しく手を振っていた姿が印象深い。テレビと新聞 19社で構成する「東京運動記者クラブ(水泳分科会)」の2012年度新人賞を受賞した。五輪後は、8歳から指導を受けていた前田覚コーチから美立ち、4月に平井コーチが胸を張る。東洋大へ進学。チームメートのベテラン松田から名將平井コーチまで「練習がめちゃめちゃ強い」と絶賛するほど高いポテンシャルの持ち主で、本人も「平泳ぎ」に大きな伸びしろを感じている。

すでに世界選手権の代表権を得ているため、今大会は「通過点」とするのが、それともライバル瀬戸に五輪メダリストとしての強さを見せつけるのか――。



## 瀬戸大也

DAIYA SETO

JSS毛呂山 所属  
1994年5月8日生まれ(18歳)

### 日本期待の新戦力。 萩野とのデッドヒートに注目!

その名はもう、ご存じだろう。ジュニア期から五輪メダリスト萩野と競い合ってきた実力はお墨付き。2016年リオデジャネイロ五輪へ向け、再出発した日本競泳陣の新戦力としても大きな期待が懸かっている。

昨年の五輪代表選考会では、男子400m個人メドレーで派遣標準記録を突破したものの3位に終わり、涙した。しばらく練習に身が入らなかったが、ロンドン五輪での萩野の泳ぎを見て「自分もこのままでは終われない」と奮起。世界各地を転戦する昨秋のワールドカップでは、課題にした他種目出場で計22回表彰台に上り、「タフなレースをして強くなったと思う」と胸を張る。

そして「4年後のリオでは(萩野と)2人で金メダル争いがしたい」と野望を抱く18歳。今大会でも瀬戸VS萩野の戦いは見逃せない。



## 大塚美優

MIYU OTSUKA

日本体育大 所属  
1994年7月19日生まれ(18歳)

ロンドン五輪出場  
400m個人メドレー・予選敗退  
200m背泳ぎ・予選敗退

### 復調のニューエイジが、 日本最古の記録打破なるか!?

思うような結果が残せなかった、初めての五輪。その後のインターハイでも、自己ベストから2番目に良いタイムだったにもかかわらず、200mでライバルの樋口恵夢に敗れた。「ロンドン五輪からずっと下がり調子で、自分が周りから落ちていくのを感じていたので悔しかった」と昨年を振り返る。だが「とにかく必死にトレーニングをしてきました」という通り、2月の日本選手権(25m)では得意の400mで短水路日本高校記録を更新して優勝し、復調の兆しを見せた。

それでも「まだまだテクニクは完全ではない」と気を引き締める。個人メドレーの若きエースが、日本最古の日本記録にどれだけ迫れるか注目したい。

